

ヤングケアラー

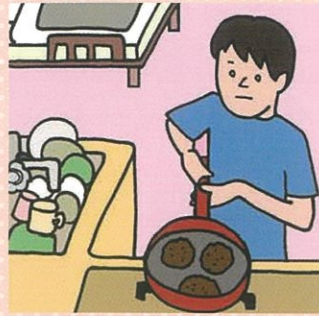
「ヤングケアラー」とは、
大人が担うようなケアの責任を引き受け、
家事や家族の世話などを
日常的に行っている十八歳未満の
子どものことを言います。

こころあたり
ないですか？

ヤングケアラーの実情



がん・難病・精神疾患など
慢性的な病気の家族の看
病をしている



障がいや病気のある家族
に代わり、買い物・料理・
掃除・洗濯などの家事を
している



家計を支えるために労働
をして、障がいや病気
のある家族を助けている



障がいや病気のあるき
ょうだいの世話や見守り
をしている



家族に代わり、幼いき
ょうだいの世話をしている

©一般社団法人 日本ケアラー連盟

全国的にヤングケアラーへの 支援の動きが広がっています。

普段の学校生活の状況 や健康状態

- 学校をたまに休む
- 遅刻や早退をする
- 宿題や課題ができていないことが多い
- 1人で過ごすことが多い
- 健康状態がよくない

(三菱リサーチ&コンサルティング2021より)

令和2年度に国が実施した実
態調査では中学生で17人に
1人、高校生で24人に1人
ヤングケアラーがいることが
わかりました。



ヤングケアラーは決して
困った子ではないのです。
ヤングケアラーが担う家族
の介護や世話は、「お手伝
い」の枠を超えて、家族に
とって欠かすことのできな
い大切な役割となっていま
す。しかし、その状態が長期
間に及ぶと学習や発達、生
活との両立や進路選択など
にも影響がでることが心配
されています。
今後、社協と町では実態把
握や情報の発信を行ってい
く予定です。

ケアラー・ヤングケアラー支援相談窓口

住所：夕張郡栗山町中央3丁目（役場前）
いきいき交流プラザ
ケアラズカフェ「サンタの笑顔」内

☎ 0123-72-2121

毎週 月・水・金（祝日休）
午前9時～12時

ケアラースレス

Vol.1

発行
社会福祉法人
栗山町社会福祉協議会
令和4年9月

最近よく
聞くけど ヤングケアラーって？

出口のないトンネルのよう
自分の時間が持てなくてイライラする。
ストレスで自分を見失うかも……

介護 なんてまだ先のこと

丸一日でも介護のことを忘れられる日がほしい。

ケアラー支援条例

町内・自治会の繋がりが大切

「町民の役割って何をしたら良いのかわかりません」

介護のために仕事をやめたけど……

義父、義母そして実母の介護が……

「この子を残して先に死ぬのが
不安なんです」

ゆっくり
食事が
したい

お金のことが

不安で……

『大切な人を介護している
あなたも大切なひとりです』

全国初の —ケアラー支援条例—

栗山町では、令和三年四月、全国の市町村に先駆けてケアラー支援条例を制定しました。長寿時代の到来は、だれもが介護し、だれもが介護される大介護時代の到来と言われています。そこには、介護をするケアラーを支えるために、町内・自治会などでの助け合いが強く求められます。今回は、条例にある「町民の役割」について一緒に考えてみたいと思います。

町民の役割とは

社協の実態調査では、ケアラーの多くが介護によって町内・自治会などの付き合いが減り、地域から「孤立」し、心や身体の不調に苦しんでいる方が多くいることがわかりました。「おはようございます」「お元氣ですか。」など、地域の皆さんの声掛けや見守りが実はケアラーの心の支えになっているのです。

自分のために 健康づくりや介護予防

わからないことは互いに教え合いながら、肩のこらないひと時を楽しんでいます。



嘉門佐代子さん

『脳の健康教室』



サロンに参加して 仲間づくり

『松風会館わくわく広場』 じー&ばー



木藤 清さん

地域の仲間と協力し、自由に交流できるサロンを開催しています。コーヒー片手に自由におしゃべり。集まれる場所を作ることが大切になっています。

サークル活動を通して 生きがいづくり

パソコン操作を覚えるため集まっています。今はスマホにも挑戦！仲間がいると何でも相談し合えます。



磯野武司さん

『わくわくシニアくりねっと』



『お出かけ安心サービス』



冠婚葬祭などにより、急な外出が必要になった時、施設でのサービスが利用できます

『コミュニティFM』



地域の情報を届けます

令和六年に開局する「コミュニティFM」は、災害時の備えに限らず、全ての世帯にまちの動きが毎日発信されます。孤立しがちなケアラー世帯にも大きな励みになると期待されます。

遠くの家族より

近くの他人

誰もがいつかは介護を必要とする時がきます。介護は突然始まり、先が見えない毎日に精神的に追い詰められるケースも少なくありません。

— 全国での事例より —

● 認知症を患い、人が変わってしまった母。母の皮をかぶった化け物だと思った。

● 言うことを聞かないので、母を叩いたらおとなしくなったので、毎日……。

● お金が無くなってしまいました。仕事を辞めずに介護ができれば一番良かったのに。

● 妻の介護は私の責任。子供たちの世話にはならない。

これは、介護の末に起きた悲劇の真相を事件の当事者自ら語ったものです。

「介護」を決して家族だけのものにならない。日頃の地域との繋がりが、こうした悲劇を未然に防ぐことになるはずですよ

広がるケアラー支援の輪

ケアラーやボランティアの皆さんの声が新たなサービスを実現させました。

介護に限らず、日頃の地域の繋がりが奇跡を生みました。平成二十六年に発生した長野地震。被害が大きかった白馬村では、全世帯四十戸が倒壊しました。近隣の住人たちが下敷きになった家屋の中から被災者を助け出し、一人の犠牲も出さなかったことは「白馬の奇跡」と呼ばれています。

白馬村では、町内会活動を通じて、日頃からの備えや地域の絆を大切にしています。

『白馬の奇跡』

町内会の繋がりが
奇跡を生んだ

